

# 山形保険医新聞

Yamagata medical practitioners newspaper

発行  
山形県保険医協会  
〒990-0043 山形市本町二丁目1の2フコク生命ビル  
電話 023 (642) 2838  
FAX 023 (642) 2839  
購読料 1ヶ月 500円  
印刷 コロニー印刷  
第496号

## 3月号 TOPICS

- 2面…保団連代議員会報告
- 3面…新型コロナ特例対応
- 4面…歯科4月からの変更点
- 5面…日本の城郭
- 6面…1・28国会集会

## 新型コロナ拡大 病院施設基準影響調査 コロナ入院患者を受け入れて いない病院も苦境

厚生労働省は昨年2月〜4月にかけて、新型コロナウィルス感染症患者等を受け入れた病棟など一定の要件を満たす場合に限り、施設基準要件を満たさなくても引き続き満たしているものとして取り扱う特例措置を実施。

しかし、コロナ入院患者等を受け入れていない病院でも、コロナ禍で患者の受診減少、職員の雇用状況の変化などで、施設基準が満たせない状況が広がっている。

8月31日に厚労省から出された事務連絡では、コロナ入院患者等を受け入れていない病院でも、「緊急事態宣言」が出された月は施設基準を満たしているものとして取り扱うことや、実績要件期間の変動などの特例措置が実施された。

しかし、「緊急事態宣言」以外の月は、コロナ入院患者等を受け入れていない病院では特例措置は適用されない。全国の協会・保団連は、全ての医療機関への施設基準の特例措置を求めているが、実態を把握するため全国の病院を対象にアンケート調査を実施。協会も1月14日に県内全67病院にアンケートをFAXで送付し、43病院より回答を

得た(回答率64%)。新型コロナウィルス感染症拡大の影響により施設基準を満たさなくなった、あるいは満たさなくなることが危惧される施設基準については、多い順に「人員配置基準」14病院、「月平均夜勤時間数」12病院、「該当患者割合」10病院、「重症度、医療・看護必要度」6病院、「該当患者数・実施件数等」6病院、「平均在院日数」4病院という結果だった。山形では施設基準への影響は大きくはないものの、「患者数減少により看護師の配置数にかなり余裕がある」、「入院・外来とも、患者減につながっている」などの声が寄せられており、コロナ禍による患者減少の影響は確実に表れている。

次に、施設基準が満たせない、あるいは満たせなくなる恐れがある原因として、多い順に「スタッフの確保が困難となったため」17病院、「入院患者が減少したため」12病院、「院内で新型コロナウィルスの感染者が発生したため」9病院、「外来患者数が減少したため」8病院となった。回答した43病院のうちコロナ入院患者を受け入れているのは5病院のみだった

が、受け入れていない病院もコロナ禍で苦境に立たされていることが浮き彫りとなった。

寄せられたご意見  
〈施設基準について〉  
・職員(看護師)の感染対策については徹底しているが、家族の感染対策は徹底できない。  
・入院患者から陽性者が出た場合、感染対策重視となり、看護師の補助者数も増やす必要があり、退院に向けた会議などもすべてストップとなる。地域包括の施設基準は満たせない状況になる。

・当院は現在設備・スタッフ不足のためコロナ感染者を受け入れていないが、受け入れざるを得ない状況になれば、基準を満たせない項目が発生することが想定される。  
・コロナの影響が長期化するとと思われる。当面の間とされている必要要件の緩和について、恒久可能なものは明確化してほしい。  
・濃厚接触者や疑わしい事例が職員で発生した際、予防的に就業制限を行うことがある。緊急事態宣言の有無による違いはなくすべき。

・満たさなくなった場合の取り下げ要件を緩和してほしい。  
〈補助金について〉  
・新型コロナの影響により、医療機関の倒産などがないよう十分な手当てが必要と考える。  
・外来患者も減っている中で、補助金は来年度も続けてほしい。  
・感染者を受け入れ医療機関以外でも、新型コロナウィルスにより収益減の影響を受けているため、設備や備品購入に対する補助だけでなく、収益減に対する補助も行ってほしい。

・経営、資金的に厳しくなり、人員の確保等が十分にできないでいる。  
・受け入れを行っていない病院への補助金はないに等しい。患者減少は顕著

で医療収益は減少し、経営維持が厳しい状況。弾力的な補助金を望む。  
・医療収益減収を補う補助制度を創設してほしい。  
・来年度以降も影響は続くと思われるので、補助制度を継続してほしい。  
・契約等の書類を簡略化してほしい。  
・医療従事者への手当補助金を検討願いたい。

〈診療報酬について〉  
・新入院、転院等にかかるPCR、スクリーニング検査も保険で認めてほしい。  
・感染症対策にかかる費用について、医療機関の持ち出しとならないよう手当てしてほしい。  
・コロナ特例の診療報酬について、可能であれば本則のものとして明確化してほしい。

〈その他〉  
・食事も別、親睦を図る機会も全くなく、コミュニケーションが低下し、先が見えない閉鎖的な状況の中で、働くスタッフは多くのストレスを抱えているのを感じる。  
・民間病院は公立病院と違って赤字になっても支援はない。地域のため病院を維持、継続していくためには、協力したくても現制度では限界がある。

・適時調査、特定共同指導等、2020年度は中止になったが、今後の対応方法について、早く情報を戴きたい。  
・学生実習や就職活動も例年通りにかかわらず、病院としてPRする場面も少なくなってきた。看護師の確保(特に新卒)が深刻になっている。

より見やすく より身近に!  
**協会ホームページ  
リニューアル**

山形県保険医協会のホームページがリニューアルしました。協会主催の講演会や書籍情報、共済制度など、より見やすく、より身近に協会活動を知っていただけるようになりました。入会申込書のダウンロードや資料請求もホームページから簡単にできます。お気軽にご利用ください。



<https://www.hokeni-yamagata.jp/>

山形県保険医協会 検索



つばさ  
丑歳に入り  
寒さの中で春  
を待つ季節と  
なりました。  
さて一昨年よ  
り新型コロナ

ウィルス感染症危機が発生し、また複雑な遺伝子形態を持つことが知られてきました。何故、どこから発生したかの特定もされずに感染力の高さだけが報道されています。ウィルスの研究は各国で行われており、感染による危険性も常に訴えられています。昨年、中国のウィルス研究所の内部映像がTVで報道されたとき、窓ガラス越しに外の風景が見えており、外部との接触の遮断ができていないことに恐怖を感じたことを記憶にとどめています。以前から他国によりその危険性は指摘されていたとの報道もありました。今、ウィルスに対してワクチンの接種によって耐性をつけることしか方法が無いような状況であり、また変異種もあり子孫生存率は未知数であります。ウィルスと放射能は地球をめぐる人類を滅ぼす要因となることを改めて強く考えさせられました。空気清浄機を購入しましたが、最近では外部からのウィルス対策のために、室内のイオン濃度を高めて不活性化することも必要と考えています。換気のできない部屋では、より高度な対策が必要と考えて過ごす早春の日々であります。(G)